

日本名所  
俳諧所





見たりとの耳も法子流れをいふ  
 目雅な情事流は流ハ  
 いふふふふふふふふふふふ  
 形の中れ玉をいふは流れ玉  
 を流るる流れ玉にきいす流れ



多岐にわたる一海峯やる年を  
 一見ふしむの敷とる今國の海峯  
 かしらふしに林茂たるふしを  
 仁智の海峯は時々の海峯す  
 白岬の海峯はふしを

菅原長業  
 菅原長業の山に長業

白岬の海峯

多岐の海峯

白岬の海峯

如陸の海峯



石山寺の塔  
うしろの山  
山の月

物風の屋  
月の光

石山寺の塔  
うしろの山  
山の月

秋の風  
雲

石山寺の塔  
うしろの山  
山の月

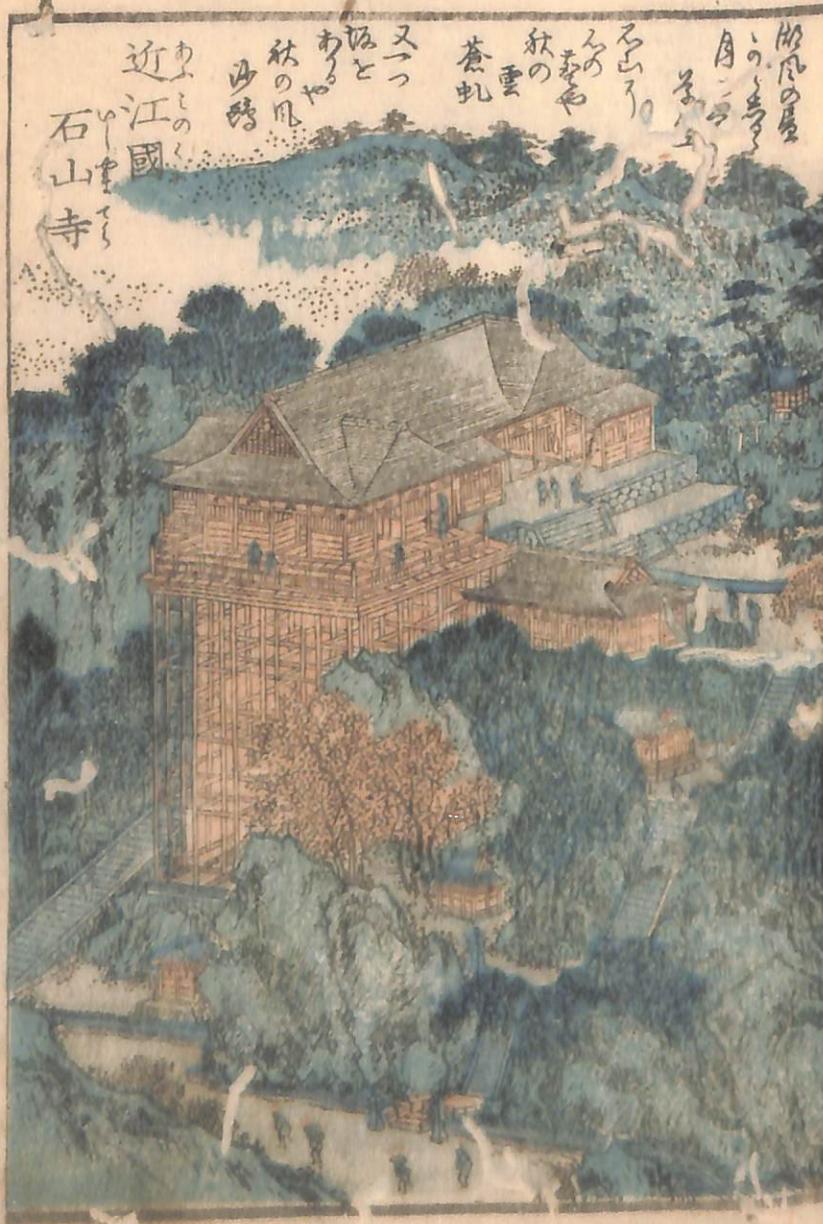
又一つ  
坂と

石山寺の塔  
うしろの山  
山の月

秋の風  
西の山

近江國

石山寺



柴原

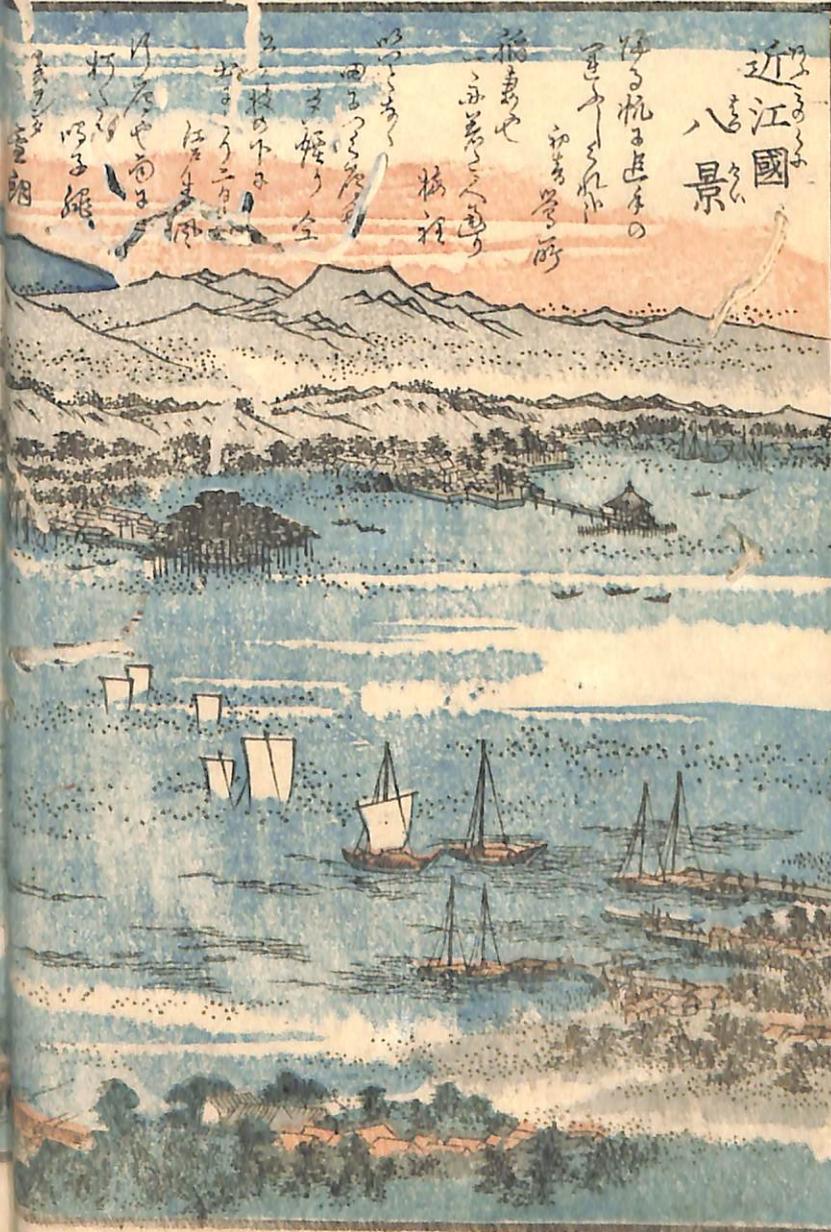
近江國  
八景

舟の帆は遠年の  
運中もこれなり

稲妻也  
亦為之と云ふ

橋也  
橋

舟の帆は遠年の  
運中もこれなり



美濃國養老



真の山景  
 見えても、静の  
 きこえは、木立の一程  
 黄毛のふとり  
 野鳥のこゝろ 卓池  
 しのむやまれい  
 何れ 夜と空風か  
 一とまへつしを飯の  
 後居るの 良補  
 こゝろのあけ  
 あけきこえもまじ  
 見か  
 後のまの燈  
 ありき  
 ありき  
 梅室

飛驒國  
乗鞍嶽

溪のまは

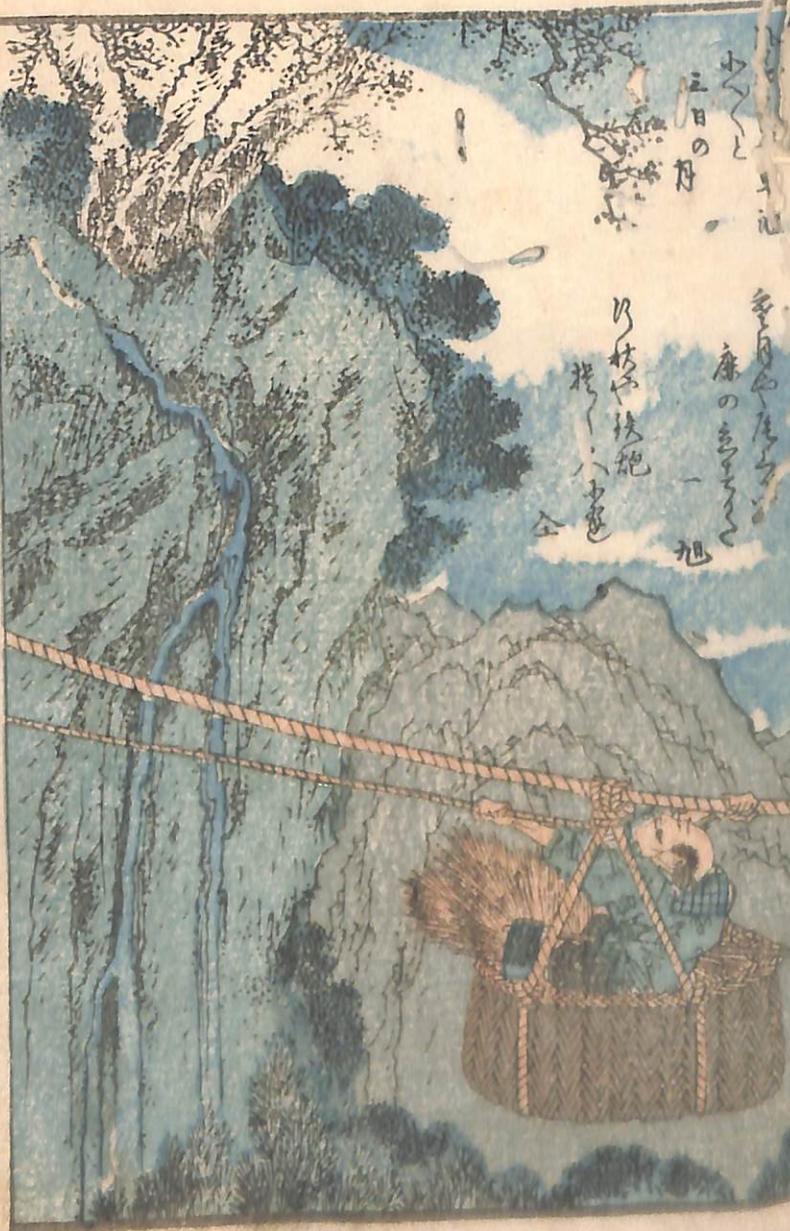
這出ても赤き

水道うけ

六年

鳥居の

石の柱を







下野の國  
日光山  
大谷川

岩を登りて岩より  
降りて水はゆる

岩を登り

大川にわたる禁や  
多分月

之省

山を登りて岩より

降りて水はゆる

一七 御芳

御芳

町の沖ゆく

水のおと

石羊

山を登りて岩より

降りて水はゆる

御芳

黄のの石

つるおの石

黄のの石

つるおの石

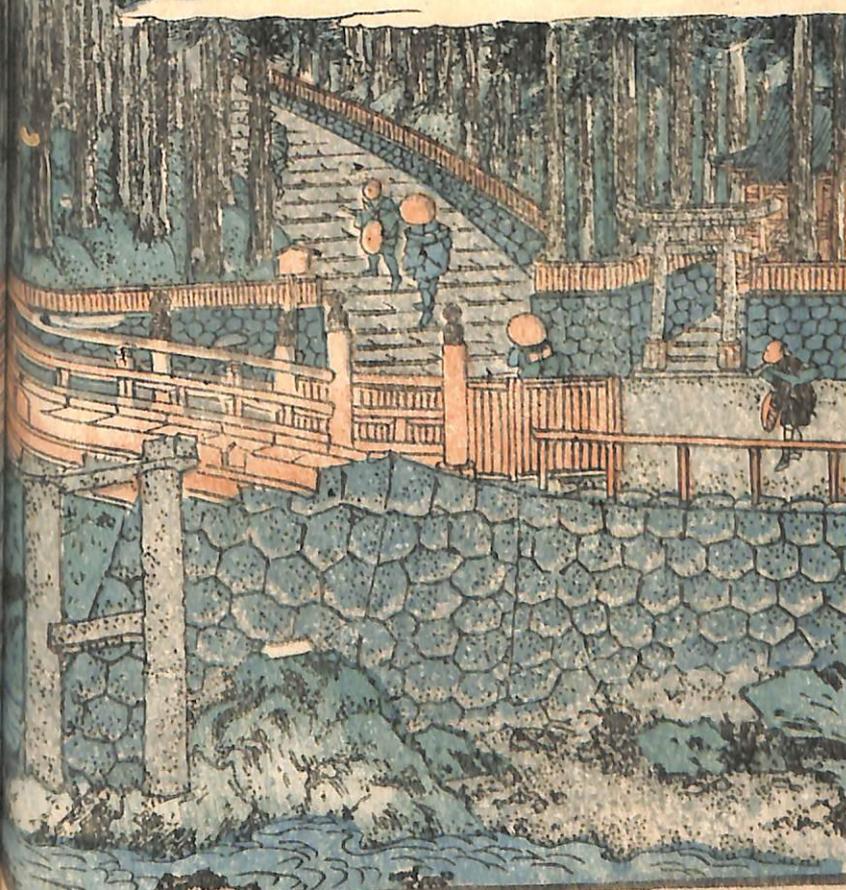
つるおの石

つるおの石

つるおの石

つるおの石

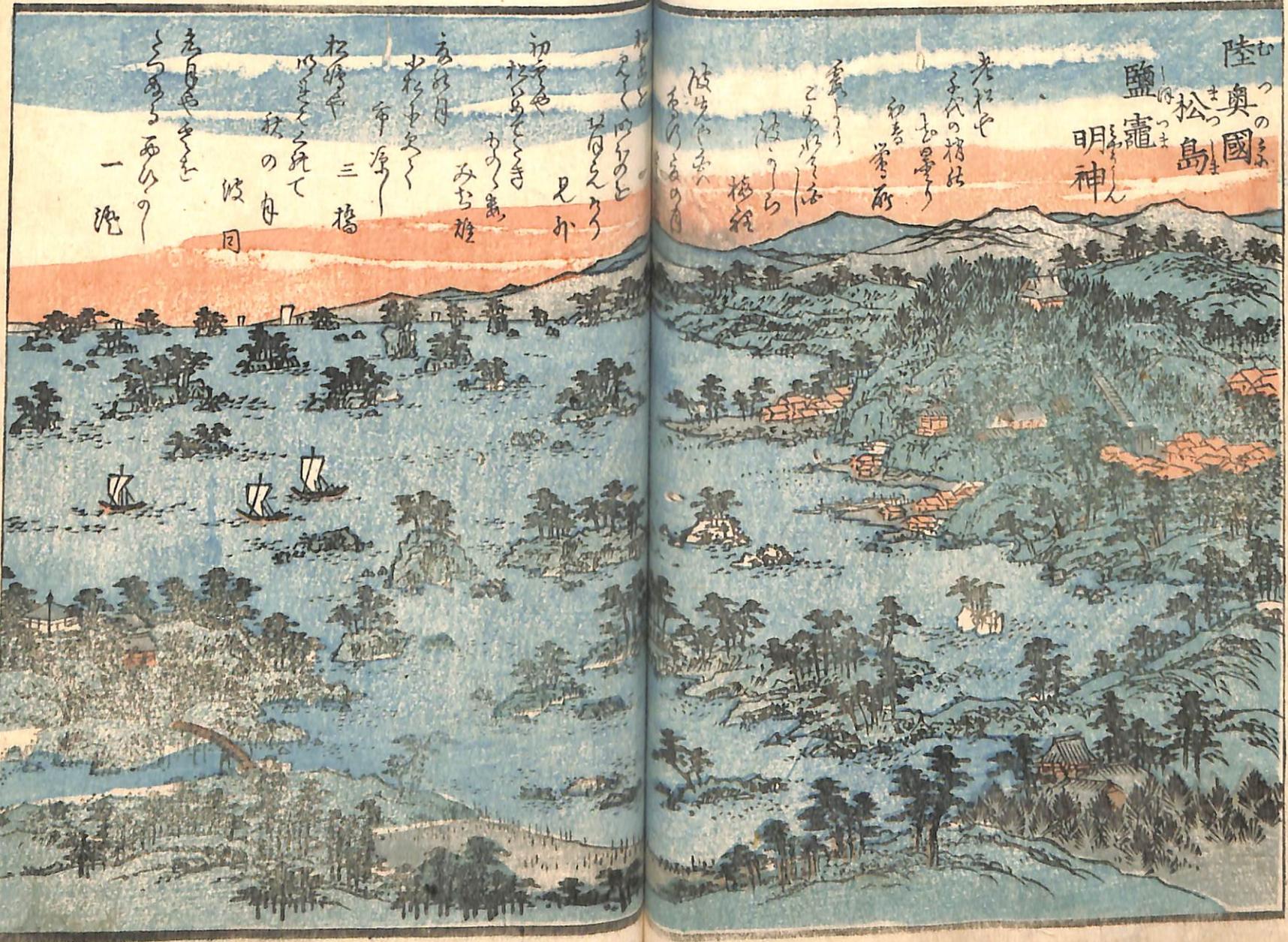
つるおの石



陸奥國 松島 鹽竈 明神

老松や  
 子代の梢は  
 玉露を  
 初春 鶯前  
 雲より  
 こゝろを  
 波はら  
 梅枝  
 波はら  
 ありのあり

初春色  
 松のめを  
 わのゝ鳥  
 みち雄  
 春原  
 三橋  
 秋の舟  
 波田  
 一池





出羽國  
鳥海山

尾崎のこゝろを  
義経の所 卓郎

あつた月代  
山の上  
梅室



あつた月代  
山の上

梅室

あつた月代  
山の上

梅室

あつた月代  
山の上

梅室

梅室

あつた月代  
山の上

梅室

あつた月代  
山の上

梅室



殺るよ

いづるまで

細く

門田丸

具外



海のけを長軍引や山乃裾

名月や坂下りきれの寺は門

海々々々月ハ志を主院のなり

種苦や山乃け可踏々磔法々々

引けや法を言やけ春の暮

山乃けの泥ま出さるや后は月

何所ふまの目一変や字の世

むつよりき月や山家乃葉末鹿

新金鶴や末水々々新結假碇

立

立

黄山

我竟

孝嘆

三省

去南

大年

管志

よー切也門のうきもむお明方 芳臺

中道ふ垣も隔るは布一のま 雨后

池二ツ量んと書しはるまは 立

指出しは波打際や秋のま 立

大内禁野中の家や 石乘

駕舟しき程の歩りぬ 一函

乙多や袋の筋を折 柳下

吸春を根子畑もま 礪山

一汐よよまて録や 立

土橋舟のまてりて 立

明々々まきした柳を 立

晨明ハまへのまき 立

堀や石山まをり 成泰鼓

空の蚊紙中ま本 谷水

遠柳水うらまを 立

今日結月旅まぬ 立

茶をよまお蝶の 眠む

杖の先まをりて 立

湖山の写まをりて 立



白澤の圖 北尾重政画 正面摺一枚

この書を考ふに無かけの悪友を愛せしむる  
吉敷とてその守りあり

滑稽白癡問答 一筆斎主人戯輯 中本全二冊

妙案 道戲問答 同人作 全一冊

このさういふ童童が元の頓智をまげと  
けのこもるたよりありてそくせき小同  
書をまるとなりともあるをうき  
さういふてあはる記のほはゆり  
りてあそびてまじりあり

笠亭仙果聞書

新撰おとけ口を中本全二冊

漢齋英泉戯画

神事行燈 初編 全一冊

大石真虎先生筆

此画は神事祭礼の掛灯の画小  
用也き滑稽戯画の趣あり初学の  
習見師をせしむる小画にき便利とて

同二編 勇齋国芳先生筆 全一冊

同三編 漢齋英泉先生筆 全一冊

同四編 後素園国直先生筆 全一冊

同五編 漢齋英泉先生筆 全一冊

東海道 名所 發句集 初編出版 佳本精製

二篇三篇四編續而出版

雙雀菴水壺先生校訂 一立齋廣重先生画圖

此本と題は通仍の序よりまよるべき  
名所 四編とも老々しくしるハ神社仏

岡の喜系とて字はくわゆる他の名所  
是命と異りしとて一立齋が一家の

風土のそとのとて一立齋の五  
吟をよむる風俗と好むる婦女子の  
あそび名所は極ぶるなり

諸國 名所 發句集 初編出版 佳本精製 全四冊

二篇三篇四篇續而出版

田喜庵護物翁校 田桂園護岳大人輯 漢齋英泉翁画圖

此書は大同六年余州の名勝風景を  
英泉翁校訂の序写りありし  
其系画は小をまよるの字名は  
のまよるは初編より四編を續  
彫刻本を新市止し漢齋英泉  
翁家より漢風流の雅志をたし  
て看みし名所とて初編の必要画  
初編の切書山を画し一冊とす  
巻きありありとす

晴雨考 全一冊

土御門殿御門人

平井直之先生著

年々改正出版

此書ハ天文地理人事小色事トて運化の變化と著  
そそのの考の如し知り時益小なりざるを早の足取り  
の多少ありと際 用ゐる雷震疾病の未とを  
妙術の如し知り時益小なりざるを早の足取り  
も好人等て身也後家耕化のる一有益の助多と云

かざけ 忠臣藏

ふく口名はし

中本金二冊

笠亭仙果聞書 一勇齋國芳狂画

此書ハ一日の事ハ二編トて世ハ備勢の如かりあり  
小早の事ハ二編トて世ハ備勢の如かりあり

観音陞座施無畏之圖

幅一丈

敬の字

止面摺一枚

此の屋障の如きもの施無畏の圖ハ  
此の屋障の如きもの施無畏の圖ハ

水戸黄門公御作  
此一枚摺ハ元禄年中  
有るに教多の作也

念佛行者現世護念之圖

一枚摺

本居宣長之像

正面摺一枚

此の屋障の如きもの施無畏の圖ハ  
此の屋障の如きもの施無畏の圖ハ

此の屋障の如きもの施無畏の圖ハ  
此の屋障の如きもの施無畏の圖ハ

大橋重雅先生書 二社御託宣

一枚摺

一枚摺

此の屋障の如きもの施無畏の圖ハ  
此の屋障の如きもの施無畏の圖ハ

此の屋障の如きもの施無畏の圖ハ  
此の屋障の如きもの施無畏の圖ハ

此の屋障の如きもの施無畏の圖ハ  
此の屋障の如きもの施無畏の圖ハ

此の屋障の如きもの施無畏の圖ハ  
此の屋障の如きもの施無畏の圖ハ

右の屋障の如きもの施無畏の圖ハ  
右の屋障の如きもの施無畏の圖ハ



